

事業報告書

I. 事業の概要

公益法人として第12期となる令和5年度は、

公1. 奨学金事業として

- (1) 県内在住17名の高校奨学生及び大学院奨学生1名に奨学金を給付した。
- (2) 奨学生同士の交流を深めるため懇親会を2回開催した。

公2. 奈良県立橿原考古学研究所に対する学術研究の為の書籍を寄贈した。

公3. 公益財団法人京都大学iPS細胞研究財団に研究助成金の寄付をした。

II. 事業活動

公1. 奨学金事業

- (1) 新採用の5名を含めて計17名の高等学校奨学生に月額3万円、大学院奨学生1名に月額100,000円を給付した。
- (2) 奨学生同士の交流を深めるため懇親会を2回開催した。

《第1回》

令和5年8月19日(土)開催 在学奨学生15名・卒業生7名・財団関係者5名 / 計27名参加

・当日は、午前の自己紹介を終え、昼食後の話し合いのテーマは、テーマ候補一覧より多数決で、『結婚って、する意味あるの?』に決定。結婚願望はあるかどうか、結婚に対してのイメージについて全員に聞いていった。家族は良いもの、一人では寂しい、自分のためだけに生きるのも虚しい等から、結婚願望があるという意見があった反面、結婚は犠牲、足枷など否定的な言葉も聞かれた。結婚という契約を交わすこと(責任感、家族を持つ決意)には意味があるものの、自己実現のために選択しない・できないと考えている人もいた。

その後、参加者に質問を振り回答していく形式をとった。1例を挙げると、
*進路について・進学について明確な目標があれば、行きたい大学や勉強への姿勢も整えられるが、だからといって目標を無理に決めなくてもよい。大学を出てから、あるいは就職してから目標が定まることもある。要は自分に正直であることが大事なのではないかという見解も聴くことができ、有意義な時間となった。

《第2回》

令和6年3月23日(土)開催 在学奨学生12名・卒業生5名・財団関係者4名 / 計21名参加

・当日は、奨学生から募集したテーマ候補一覧より多数決で、『生きる意味 自分の存在価値』に決定。自分の置かれている状況や生きがい、将来の目標などそれぞれの考えを出していった。“生きている間ずっと探していくもの。周りとの関係から存在価値がわかる。自分を中心としてどう捉えるかを考えるもの。与えてもらったことに感謝し、次に繋げること。”など様々な意見が出た。難しいテーマであったが、自分の考えや思いを言葉を選んで話し、それぞれが改めて考える機会となった。

その他、教えて先輩、聞かせて後輩では、ためになった参考書やお互いのおすすめの本や音楽などの情報交換もできた。

公2. 奈良県橿原考古学研究所へ学術研究の為の書籍を寄贈した。

公3. 公益財団法人京都大学 iPS 細胞研究財団に研究助成金の寄付をした。